

遺跡を現地保存している地底の森ミュージアム

仙台市富沢遺跡保存館 学芸室長 太田 昭夫

仙台市太白区の長町南・富沢地区を中心に、面積が90ヘクタールという範囲にわたって広がっているのが富沢遺跡です。この遺跡のなかの小学校建設予定地の調査で、昭和63年に地下5メートルから2万年前の氷河期の森のあとと、当時の人々の生活あとが丸ごと発見され、大きな話題を呼びました。この発見された貴重な遺跡の一部を、そのままの姿で建物の中に保存し公開しているのが地底の森ミュージアムです。遺跡を保存するにあたっては最先端の建築工法と化学技術を採用しており、現地保存型の遺跡博物館としてだけでなく、その保存方法の点でもたいへん注目を集めています。平成8年の11月にオープンして1年あまり過ぎましたが、これまで10万人近い多くの方々ที่มา館しています。

1. 常設展示

展示は、

- ・遺跡のもつ魅力、迫力をそのまま伝える。
- ・生活あとから当時の人々の活動の様子

を紹介する。

- ・明らかになった当時の環境を具体的な姿として伝える。

などの主旨にもとづき、3部で構成されています。中でも一番の柱となっているのが地下展示室（よみがえる2万年前）です。ここでは発掘された遺跡をそのままの姿で展示しており、一面に広がる生々しい樹根群や旧石器人のキャンプあとなどが楕円形の大空間の中で臨場感あふれる状態で見学できます。また、10分ごとに暗くなり、壁面には当時の環境に近い湿地林の風景が、遺跡の上のスクリーンにはここできりひろげられた旧石器人たちの活動の様子が映し出され、生の遺跡と復元された映像を通して、2万年前の世界が体感できるような演出がなされています。

次の1階展示室（解き明かされる2万年前）では発掘調査からわかったことを、出土試料や模型、映像などを通して解説をしています。はじめに、「氷河期へのいざない」で2万年前までの人類の進化

と広がり、2万年前の環境などを説明し、つぎに展示の中心である富沢遺跡の調査成果の紹介になります。ここは富沢の旧石器人の活動をテーマとしたコーナーと、富沢の自然環境をテーマとしたコーナーからなり、「富沢博士」が謎解きをしながら紹介する方法で説明をしています。また、石器の接合からわかった石器づくりの順序を紹介するのにCGを使ったり、映像で石器の作り方や石器の使い方に関する実技を紹介したりして、視覚的に理解できるような工夫をしています。最後に復元画と立体映像で当時の生活と環境をまとめています。とくに模型を背景とした立体映像は来館者に人気を博しているようです。

展示のもうひとつの柱が野外に復元展示している「氷河期の森」です。これは調査の成果からわかった2万年前の富沢の風景を再現することをねらったものです。地形の起伏はやや強調していますが、沼や湿地、草原を復元し、そこに植物化石などからわかったいろいろな種類の植物を当時のように配置して、氷河期の森の様子が実感できるようにしています。

2. 博物館活動

地底の森ミュージアムは、旧石器時代を中心としたテーマミュージアムという基本的な性格をもっています。その点をふまえながら、さらに幅広いいろいろな活動を行っています。展示活動としては、上の常設展示とともに企画展示を年に4回実施していますが、その内の1回は特別企画展として比較的規模の大きい展示を、ほかの企画展は手作りのできるような内容の展示をそれぞれ行っています。平成9年度は、特別企画展は「ネアンデルタール人の復活」展、企画展は「土の中からのメッセージ——発掘された仙台の遺跡1」展・「富沢の歴史——2万年にわたる水とのかかわり」展・「氷河期の森の植物」展を実施しています。

教育・普及活動としては、ひとつは小・中学校の学習活動に博物館を積極的に活用してもらおうと、その効果的な利用についての実践を進めています。今年度は7つの学校の児童・生徒が、学校教員と館の学芸員との指導のもとに当館を利用した歴史の授業を行いました。見学やグループ学習などでは多くの学校が訪れましたが、授業の中でも博物館がもっと利用されるようにこれからも学校教育と

の連携を強めていきたいと考えています。

普及活動では一般を対象にした講座として、今年度は3回の「氷河期いろいろ講座」と1回の考古学講座を実施しています。また、旧石器時代や縄文時代などの生活技術の体験を通して歴史を学ぶことも活動の柱としており、これまで一般を対象にした「石器づくり教室」、親子を対象にした「親子体験教室——土笛づくりと石器づくり」、地域の区民まつりの日にあわせた自由参加の「富沢まつり——石器を作り、使う・火おこし・縄文食などの体験」などを実施しています。

このほかに学芸員が来館者を対象に、毎週土曜日の午後に展示を解説する「展示説明会」を、同じく日曜日の午後に富沢遺跡の調査の様子をスライドを使って解説する「富沢講座」をそれぞれ開いて、普及に努めています。また、当館の特色ある事業として「市民文化財研究員」制度があります。これは、遺跡や考古学に興味を持っている市民が、それぞれのテーマにもとづいた研究活動を行うのを館が支援し、市民がより歴史や文化を身近なものにすることを目的とするものです。平成9年度は15人の研究員がその活動を行っています。

近年、生涯学習活動のために博物館を活用することが望まれております。その観点からも、当館が生涯学習の場のひとつとして積極的に活用されるように今後ともさまざまな普及事業を企画していきたいと考えています。

地底の森ミュージアムの概要について紹介しましたが、最後に皆様にもぜひ一度ご来館いただくことと、講座や教室などにも積極的にご参加くださることをお願いして紹介を終わります。なお、団体やグループでのご来館で、展示に関して案内・説明がご希望の場合は前もってご連絡くださいますようお願いいたします。

利用案内

1. 所在地

〒982-0012

仙台市太白区長町南四丁目3-1

2. 電話およびファクシミリ

TEL 022(246)9153

FAX 022(246)9158

3. 開館時間

午前9時～午後4時45分

(入館は午後4時15分まで)

4. 入館料

区分	個人	団体
一般	400円	320円
高校生	200円	160円
小・中学生	100円	80円

・団体は30人以上、引率者は30人につき1人無料

5. 休館日

・月曜日（休日を除く）

- ・休日の翌日（休日または日曜日を除く）
- ・毎月末日（日曜日を除く）
- ・12月28日～1月4日

6. 交通案内

- ・地下鉄長町南駅より徒歩5分
- ・JR東北本線長町駅より徒歩約20分
- ・東北自動車道

仙台南インターより約7km





外観（入口ゲート）
コンクリートの楕円形の建物が目印



氷河期の森（野外展示）
現在の仙台と大きくちがった風景



地下展示室（常設展示1）
10分おきに映像が始まる



小学校の博物館利用学習



1階展示室（常設展示2）
富沢博士が登場



氷河期いろいろ講座